

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 道路維持課長 山崎泰助 電話番号 0852-22-5187

事務事業の名称	無電柱化事業		
目的	(1) 対象	道路利用者	
	(2) 意図	県管理道路において電線類地中化事業を活用して電線・電柱をなくすことにより、良好な景観を形成し、安全で快適な通行空間を確保するとともに、万一の地震災害時に電柱の倒壊による道路の寸断を予防しライフラインを確保する	
事業概要	「無電柱化にかかるガイドライン」に基づき、電線管理者と基本計画（H21～）を策定、その計画に沿って事業を推進し、無電柱化を図る		

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 電線類地中化等整備率	目標値		93.5	94.8	95.6	96.1	%
		取組目標値						
	式・定義 累計整備延長/全体整備計画延長（40.8km）	実績値		92.8				%
		達成率		-	-	-	-	
2	指標名	目標値						
		取組目標値						
	式・定義	実績値						
		達成率		-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	51,458	27,080
うち一般財源 (千円)	23,311	808

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5.評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

本事務事業は、H27時点で新たに電線管理者が地中化に合意した延長3.9kmが対象
 そのうち、本計画期間（H27～H31）に整備が見込まれる2.3kmを目標としている
 成果参考指標の算出にあたっては、H26までの整備済延長36.9kmを含む各年度の累積整備延長／全体整備計画延長（40.8km）
 なお、年度ごとの目標値は、同時施工する道路事業の進捗を考慮して積み上げた累計整備延長／全体整備計画延長（40.8km）
 H27実績値 92.8% = (36.9km + 1.0km) / 40.8km
 H31目標値 96.1% = (36.9km + 2.3km) / 40.8km

6.成果があったこと（改善されたこと）

関連する道路事業の進捗にあわせ、計画どおり電線共同溝の整備が行えた

7.まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
 本計画期間内は、関連する道路事業に併せ整備を行う予定であり現時点で問題はない
 しかし、以下の理由から拡幅を伴わない道路での電線類地中化事業が長期化し進まない状況
 ①施工効率が悪い
 ②地元調整に時間がかかる
- ②困っている状況が発生している「原因」
 道路拡幅を伴わない道路での問題は、以下のとおり
 ①施工効率が悪い原因は、拡幅を伴わない限られた道路区域内での作業である
 ②地元調整に時間がかかる原因は、すでに埋設されている道路占用物（上・下水道、ガス等）への配慮が必要
- ③原因を解消するための「課題」
 軒下配線や裏配線など地中化にこだわらない手法、及び現在国で検討されている浅層埋設等の無電柱化低コスト手法の動向を注視し、無電柱化を推進していく

8.今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

今後、道路拡幅を伴わない緊急輸送道路ネットワークの信頼性の向上に資する無電柱化を推進する必要がある
 また、無柱化計画のある区間が、緊急輸送道路ネットワークとしての防災に資するものであることを電線管理者に理解を求めなければならない

9.追加評価（任意記載）

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。